

福井県敦賀市樫曲・中池見湿地で2000年に 新たに記録されたトンボ2種について

和田 茂 樹*

Two Odonata species newly added to the fauna of Nakaikemi, central Honshu, Japan, in 2000

Shigeki WADA*

福井県敦賀市樫曲の中池見湿地 (25ha) では、これまでに64種のトンボが記録されていたが (和田, 2000), 2000年8月にこれまで同地で未記録であったミヤマサナエ, セスジイトトンボの2種を採集したので報告する (標本は筆者が保管している).

1. ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)

1♀, 19-VIII-2000.

2000年8月19日午後1時45分ごろ, 蛇谷の林縁 (通称シボラ道) で, 下草に静止した成熟個体を採集した. 中池見湿地には本種が通常生息するような河川が存在せず, 笙の川下流, 日野川, 滋賀県湖北地方などからの飛来個体と考えられる.

2. セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)

2♂, 19-VIII-2000; 2♂目撃, 20-VIII-2000.

2000年8月19日午後2時50分ごろ, 笹鼻の池 (客土に伴ってできた水溜り) で成熟した2♂を採集した. また同日に採集個体の他にも2♂を目撃し, 翌日 (20日) にも2♂を目撃している. 観察個体はすべて縄張り中のものであり, 産卵等は観察できなかったが, 複数個体が見られたことから, 今後定着する, 或いは既に少数ながら定着している可能性は高い. なお, 筆者は2000年7月10日にも同一箇所を調査しているが, その時には同属のクロイトトンボとオオイトトンボを確認したのみであった. 本種は敦賀市をはじめ県内の平野部に比較的普通に生息するが, 中池見湿地が周囲を完全に丘陵帯に囲まれているために侵入個体が少ないこと, 成虫の分散が最も顕著になる晩夏~秋期の調査がこれまで必ずしも充分でなかったことなどにより, 発見が遅れたものと思われる.

上記2種の発見により, 中池見湿地でのトンボ類の確認種数は66種となった. 国内における単一

*〒918-8004 福井市西木田3-8-18

地区での確認種数としては、静岡県磐田市・桶ヶ谷沼の65種（大庭，1999）を上回り、高知県中村市田黒・池田谷の74種（杉村，1996）に次ぐ数字となった。

2000年8月にカナダ・ケベック市で開催された第6回国際湿地会議では、同会議の期間中に行われた「中池見湿地の保全と開発をめぐる問題に関するシンポジウム」を受けて、中池見湿地全体の保全を求める国際生態学会湿地問題研究班の決議文が採択された。同決議文中には64種（当時）のトンボ相が中池見湿地の生物多様性の重要な構成要素として挙げられている。しかし、一方で、中池見湿地ではLNG備蓄基地建設計画に関連する諸事業等の影響による水環境の変化が見られ、ネアカヨシヤンマやキイロサナエといった一部のトンボ類が現在では確認が困難になっている。「中池見湿地全体の保全」を真の意味で実現していくためには、同地の水の動態に相当の影響を与えていると考えられる作業道路の撤去、水生動植物相の単調化を招いているアメリカザリガニの激増への対応といった、単なる保全にとどまらない「回復」の作業が念頭におかれなければならないが、今後のトンボ相の推移は、中池見湿地の水環境がどの程度回復しつつあるかを如実に示す重要な指標となるだろう。

参 考 文 献

- 大庭俊司. 1999. 桶ヶ谷沼の自然と管理. 自然復元特集2・ビオトープ—復元と創造—（自然環境復元研究会編），49-59.
- 杉村光俊. 1996. トンボ王国ガイド. 112pp. トンボと自然を考える会. 高知.
- 和田茂樹. 2000. 中池見湿地のトンボ相. 中池見湿地（福井県敦賀市）学術調査報告書—第二次学術調査結果の報告—（京都・神戸・福井3大学合同中池見湿地学術調査チーム，日本生物多様性防衛ネットワーク編），18-50.